

水の命は人の命

横浜市立篠原中学校

三年 齋藤 桜彩

「水にも命がある」私がそう感じるようになったのは新型コロナウイルスの影響で様々な活動の自粛が求められた結果、世界各地の海や湖、川の水がきれいになったというニュースを見た事がきっかけです。水の都として有名なベネチア運河では劇的に水が澄み、白鳥が悠々と泳ぐ姿が映し出されていました。また、ハワイの海も同様に観光客が減ったことで水の透明度が増して珍しくウミガメが巣作りを始めたそうです。私はこの映像を見て「今まで人間が水の命を奪っていたんだ」と感じました。そして、これからの行動を変えていかなければいけないと思いました。

私達は水がなくては生きていきません。一人が一日に使う水の量は約二五〇リットルと言われています。私は

四人家族なので私の家だけで一日に一〇〇〇リットルも使っているのです。こんなにも水が必要なのに私は今まで節水することが水を大切にすることだと考えてただけで「水の命」という視点を持ったことがありませんでした。水は循環型の資源とはいえ、私達が守っていかなければいつか生活を支えることができなくなってしまうのではないのでしょうか。

水の命を守ることは人の命を守ることです。そのために私達は何をすべきなのでしょう。私はSDGsの十七の目標を思い出しました。持続可能な世界を築き人と地球を守るために掲げられた目標です。その中に「安全な水とトイレを世界中に」という目標があります。私は「安全な水」という言葉に着目して世界の水事情を調べました。世界には水道設備のない生活をしている人が十二億人もいます。そしてそのような地域の人々は有害な物質が含まれている水だとしてもその水で生活するしかないのです。そしてそのために命を落とすことは少なくないと感じました。水が生きていなければ人も生きられないことを痛感します。やはり、水は人の手で守っていくことが必要です。

私が住んでいる横浜市は明治二十年に日本で初めて近代水道ができた都市です。港町として栄え、古くから水が豊富だったと思うかもしれませんが横浜市の水を支えてくれている場所の一つは山梨県道志村の山林です。この山林は「水源涵養林」として百年以上も前から水を守り、私達の生活を支えています。水源涵養林は長い年月をかけて作られた柔らかい土壌が雨水を蓄え、ゆっくりと地中に浸透することで浄化された地下水となり、その地下水が湧き水として河川になるといふ働きをしています。そして、地下水がゆっくりと河川にしみ出てくることで洪水の緩和にもなる素晴らしい機能を持っています。しかし、自然の力だけに頼っているのではなく、下草をとったり間伐をしたり、保水機能の高い広葉樹を育てるなどたくさんの人の手で大切に守られて今があることを忘れてはいけません。労力も時間もかかる活動ですが、これが水の命を守るといふことなのだと思います。私の家の蛇口から出る水が長い年月をかけて自然の力とたくさんの人の手で守られたものだと思うと、とても貴重でありがたく感謝して使わなくてはいけないと感じます。水の命を守るためには一滴一滴の水が人の命を左右する

大切な資源であり、守っていく必要があると学ぶのが第一歩です。そして二歩目は自分にできることを考え、行動していくことだと思います。私は「水の命II人の命」という意識を多くの人に持ってもらえるように伝えていくことを二歩目の行動にしようと思います。多くの人が意識することで世界の水はもっときれいになるはずですがまだ水道のない国や地域の人々が水によって命を落とすことがなくなるようにしたいです。

水の惑星とよばれる地球です。何十年後も何百年後もきれいな水で覆われて青く輝いているように努力していきましょうと思います。